

新 市 町



とりで 取手町

1. 沿革

この町は水戸から常磐線で南へ約2時間、日本第三の長流利根川(322k)を境に千葉、東京への関門として昔から重要な地位を占めている。この地方は古来坂東太郎といわれる大利根の洋々たる流れに広茫果てない田園、さらに遠くは日光、榛名、秩父の連山をはじめ、青空に靈峰富士などを遠望できる天然美を形作っている。昔この地に大鹿太郎左衛門の〔とりの〕のあつたところから、寛永年間に堀田備中守の領地となつたとき取出、延宝元年に取手と改称され、後の地方は酒井河内守や松平和泉守、久世大和守、伊奈半十郎、小笠原再三郎氏、相馬氏などその他の領地や徳川氏の直轄地となつたり、諸家の勢力混濁地帯であつたようだが取手地区は、参勤交代の大、小名をはじめ、陸前浜街道の旅行者が必ず宿泊する宿場として政治、交通上最も重要視された。明治維新後は葛飾県、印旛郡、千葉県などに属し、明治8年には茨城県に編入され、明治29年12月には鉄道が開通し、昭和5年には大利根橋が架橋されて陸路交通は次第にひんぱんとなり、24年6月遂に待望の鉄道電化が実現し、東京都郊外の衛星都市として第一歩を印したのである。

昭和30年2月には、隣接の稲戸井、寺原、小文間村および高井村の一部を包含して面積 36.93平方町、世帯数 4,272、人口 21,471人(男10,485、女10,986)を有することになった。(昭31人口世帯異動調査)またここには県支所をはじめ、取手一、二高、各種銀行支店、協同病院、土木出張所、調査統計事務所、食糧事務所、土地改良事務所、農業改良相談所などがあつて、今や産業、経済、教育、交通の中心地に飛躍し、今後の発展が期待されている。

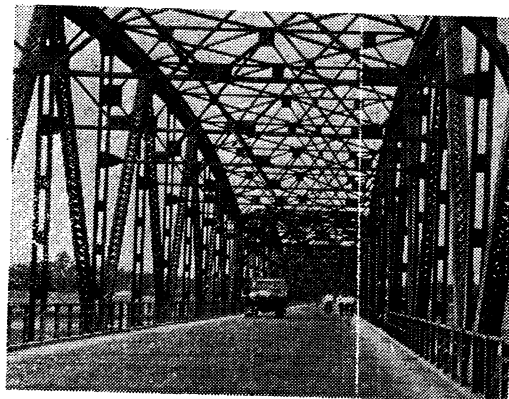
2. 産 業 まず農業面を見ると、農家戸数 1,460戸農家人口 8,461名(男4,109、女4,352)、耕地面積 1,397町(田830町、畑564町、樹園地2町余)を有しており、米どころだけあつて殆ど早場米として出荷が済んでいるようである。次に畜産面は、乳牛4頭、役牛681頭、馬79頭、めん羊2頭、山羊72頭、豚240頭、兎233頭、にわとり8,856羽、あひる11羽を飼養している。また農機具の普及状況は、電動機681台、石油発動機130台、ハンドトラックター1台、動力用脱穀機745台、足踏脱穀機239台、動力糶すり機483台、〃製粉機330台、〃精米麦機493台、〃噴霧機3台、人力〃334台、動力撒粉機6台、〃製塩機4台、〃製繩機158台、足踏製繩機493台、畜力用カルチベーター172台、畜力水田中耕除草機15台、〃碎土機283台、エンジンレージカッター5台、畜力すき412台などを有しており、水田地帯が多いために電力利用による副業が非常に発達している。

次に商工業面を見ると、まず商店街は昔から繁盛し、法人および常用労働者を有する個人商店数51、従業者数

293名、常用労働者のいない個人商店数362、従業者数658名であり、中でも洋品雑貨小売業や食料品小売業が大部分である。また工場数は66、従業者数580名、年間製造出荷額5億2,656万円余にのぼり、中でも衣服をよび身廻品製造業や回転まぶし製造業、輸出用造化製造業が目立っている。今後都市計画事業の推進と相まって、大工場の誘致運動を行つてゐる由。

3. 教育文化 ここには高校2、中学校3、小学校8あつて、高校生徒1,343名(男721名、女622名)、中学生徒1,358名(男655、女693)、小児児童1,767名(男901、女866)を有している。町としても教育施設の統合強化を計るとともに、1日1,000メを焼却できる藁芥処理場を建設し、汚物処理、清掃事業を拡充して町民の福祉厚生を促進しようとしている。また隣接の2町1カ村と共同で伝染病の隔離病舎を総工費700万で来春3月までに建築し、伝染病の治療予防のために大きな役割を果すものと思われる。寺原、稲戸井の両地区では、国民健康保険組合が設立されており、約900世帯が加入しているが32年度からはさらに全町加入を実現する由。ここには園児120名を収容している町営保育所や町営住宅152戸、県営住宅65(建設中20戸)を含むなどがある。次に婦人青年団体の活動を見ると、特に婦人会の生活改善を主体とする活発な動きが目立っている。

この町の名所旧跡としては、徳川の名臣本多作左衛門の菩提所や県下唯一の競輪場、日本第三の大利根橋(全長988米幅員75米)大鹿城址、弘経寺、高井城址、樹令1,200年といわれる天然記念物の地蔵樹、三仏堂、桔梗塚行基の作といわれる馬頭観世音、日本三体の一つといわれる毘沙門天堂など数多くある。さらに高井地区の市の代にある三塚は、石器時代の貝塚で日本考古学の研究史料として貴重な存在となっている。



(大 利 根 橋)

4. 財 政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算

(単位千円)

歳 入	税	地 方 交 付 税	公 企 業 及 財 産 収 入	使 用 料 及 手 数 料	国 庫 支 出 金	県 支 出 金	寄 付 金	繰 越 金	雑 収 入	町 債	合 計				
	39,111	13,550	1,387	1,667	3,344	1,215	1	4,068	1,306	1,500	67,149				
歳 出	議 会 費	役 場 費	消 防 費	土 木 費	教 育 費	社 会 勞 働 保 健 産 業 施 設 費	衛 生 費	経 済 費	財 産 費	統 計 調 査 費	選 挙 費	公 債 費	諸 出 金	支 予 備 費	合 計
	430	16,898	2,736	8,030	19,735	1,011	3,577	4,869	3,000	232	242	1,031	4,358	1,000	67,149

村の横顔

常北町

1. 沿革

ここは水戸市から北西へ15軒、那珂川の西側とその支流藤井川と西田川流域の山間丘陵地帯に発達したところである。昔この地方は、常道六国時代には仲国に属し、大化改新に入つて常陸国那珂評に、和銅年間に那賀郡へ、文祿年間に那珂西郡、茨城郡とそれぞれ変り、明治維新後は東、西茨城郡の両郡にまたがっていた。そして昭和30年2月11日には、石塚町、小松村、西郷村が合体して面積52平方町、世帯数2,402、人口12,712人(男6,142、女6,570)とふくれ上り、その名もゆかしい常北町が誕生したのである。

ここには、専売公社出張所をはじめ、県立水戸農高の分校や改良相談所、藤井川堰堤建設事務所、調査統計事務所、食糧事務所出張所、銀行支店などがあり、また私鉄、国鉄および民間バス路線がひんばんに開けており、郡北部における産業、経済上の重要な地位を占めているが新農村建設指定村として今後の発展が注目されている。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数1,741、農家人口9,704名、耕地面積1,378町(田486町、畑872町、樹園地218町)山林2,399町、原野134町(昭和31年8月町調査)を有しているが、中でもたばこの栽培面積は157町に達し、毎年9万メ余の生産をあげ、西郷地区の初音茶、ごぼうとともに特産物となっている。次に畜産面を見ると馬238頭、役牛560頭、乳牛16頭、豚239頭、山羊194頭、めん羊101頭、兎452頭、にはとり7,509羽にのぼっている。(昭和31年8月町調査)また農機具は、電動機166台、石油発動機219台、動力用脱穀機362台、〃 糶すり機206台、〃 精米機233台、〃 製粉機53台、畜力用カルチベーター52台、畜力用水田除草機7台、エンシレージカッター47台に達し、(昭和31年8月町調査)今後さらに優良家畜や優良農機具の導入に努め、農産物の共同販売、耕地道路の整備、協同組合の統合強化を計り、全町をあげて理想郷の建設に着実な足りを示すことであろう。

次に林業面は、2,400町の大山林を有し、そのうち国、公有900町、1,500町が私有林であるがその大部分は少数の山主所有になっている。林況は針葉樹、広葉樹が相半の伐採は毎年90町にのぼり、パルプ用材や薪炭材として利用される。なお木炭は15,000俵、薪23万束を毎年生産している由。

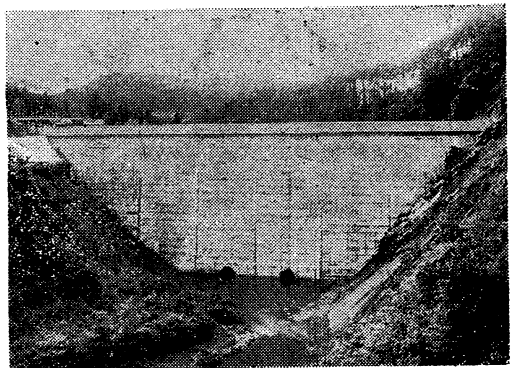
次に商工業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店40、常用労働者のいない個人商店162あるが、そのうち呉服、洋品雑小売業や食料品小売業が大部分である。(昭和31年7月商業調査)また工場数は、17、従業員数75名、年間製造出荷額5億2,656万円を越えており、

うちおもなものは澱粉工場であるだけで、他に見るべきものはない。

3. 教育文化

ここには高校(分校)1、中学校3、小学校4、幼稚園があつて高校生徒147名(男127、女20)中学生徒917名(男477、女440)、小学校児童1,767名(男901、女866)を有している。また青年婦人団体の活動は昔から発達しており夏期大学、指導講習会、生活改善事業などは立派な成績を収めている。特に公民館は本館1、分館3があつて、青年学級、図書の間覧、合同節句祭、町民運動会、料理、生花、和洋裁の講習会などをそれぞれ開催している。合併と同時に待望の国民健康保険組合を全町に実施したが、加入世帯2,273世帯、被保険者11,746名、直営診療所2を有し、町民の医療厚生のために大きな役割を果たしており、さらに34年までに町立総合病院を建設する計画がある。また町としては幹線道路の改修、永久橋化の実現、学校消防厚生施設の整備拡充、簡易水道の設置、町営バスの運行などを企図している由。

この町の史跡名勝としては、建武中興の功臣那珂通長の築いた那珂西城址、平城天皇の御代に建立された国宝薬師如来像、胎内仏および日光月光を安置する薬師寺、あるいは応永三年に知空上人が開いた宝幢院宝蔵寺、平重盛の墓所といわれる白雲山小松寺などがある。また上入野と下古内の境に県が昭和27年から総工費3億2,500万円を着工して昭和31年3月に漸く完成した藤井川防災ダムは、高さ87.5米、長さ117米の重力式コンクリートダムで貯水量は38万立方メートルにのぼり、排水トンネル、締切アーチダムを設けて下流の耕地家屋などの水害を防止できるといふわが国最初の試みである。



(藤井川防災ダム)

4. 財 政

昭和31年一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	財取	産入	手数料	国庫支出金	県支金	寄付金	繰入金	繰越金	町債	雑収入	合計		
入	20,280,800	8,500,000	1,051,000		290,000	770,410	804,550	84,000	1,000	380,000	30,000	50,000	32,250,760		
歳出	議会費	役場費	警消費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	741,800	9,491,000	1,805,440	2,050,000	7,256,805	594,618	3,116,350	2,805,865	496,000	139,000	294,800	626,356	1,832,726	1,000,000	32,250,760